

防除法がない新型のピーマン PMMoV (トウガラシマイルドモットルウイルス) に注意

【1 ピーマン PMMoV L^4 打破系統の伝搬経路と蔓延防止対策】

- (1) 抵抗性品種による防除が不可能な新型 PMMoV (L^4 打破系統) が複数の地区で発生しています。遺伝子解析の結果、このウイルスは、県内に分布していた L^2 打破系統ウイルスが変異して生じたものだと判明しました。
- (2) このことから、本ウイルスは、県内で変異して生じたものが汚染土壌の移動に伴い伝搬したと推定されます。このウイルスの蔓延を防ぐためには、発生圃場への人の出入りや機械の共有、苗持ち込み等による汚染土壌の移動を防ぐことが最も重要です。

表1 PMMoV L^4 打破系統 (病原型 $P_{1,2,3,4}$) 発生地域における本ウイルスの発生農家割合 (H30)

地区	調査農家数	PMMoV L^3 打破系統 (病原型 $P_{1,2,3}$) 発生農家数	PMMoV L^4 打破系統 (病原型 $P_{1,2,3,4}$) 発生農家数	PMMoV L^4 打破系統 発生農家割合 (%)
A	121	0	8	6.6
B	6	0	1	16.7
C	66	0	1	1.5

【摘要】 複数の地区の10農家の圃場で PMMoV L^4 打破系統の発生が確認されました。なお、H30 にピーマンを新規作付けした圃場でも確認されており、本ウイルスの発生圃場は確実に増えています。

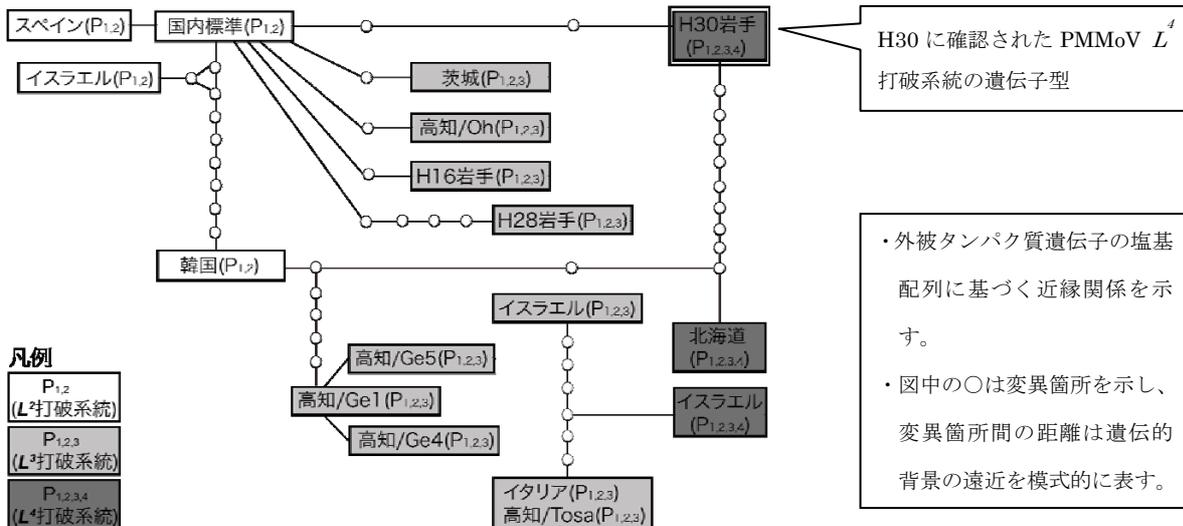


図1 既報および県内で確認された PMMoV の遺伝子型の近縁関係 (模式図)

【摘要】 H30 に県内10圃場で確認された PMMoV L^4 打破系統は同一遺伝子型でした。また、過去に国内や海外で報告のある L^4 打破系統ウイルスとは異なっています。遺伝子解析の結果、以前から県内に分布していた L^2 打破系統ウイルスが変異して生じたものだと判明しました。
→このことから、今回確認されたウイルスは、以前から県内に分布していた国内標準 L^2 打破系統 (病原型 $P_{1,2}$) から変異して生じたものが、地区内で汚染土壌の移動 (人の出入りや機械の共有、苗持ち込み等) により拡大したと推定されます。

【2 留意事項】

- (1) PMMoV L^4 打破系統が発生した圃場では、有効な対処法がないため、原則として廃作にする必要があります。
- (2) PMMoV と疑われるモザイク症状株を発見した場合は、すぐに指導機関に連絡し、PMMoV によるものかどうか確認してください。